



取扱説明書

GEAREV NEWS GEAREV

モーターサイクル



ご使用前には必ず取扱説明書をよく読んでください。

DV5-28199-J0

ヤマハ車をお買いあげいただきありがとうございます。

安全で快適なバイクライフをお楽しみください。

この取扱説明書と共に「メンテナンスノート」を受取り、下記を確認してください。

- お車の正しい取り扱いかた
- 保証内容と保証期間
- 点検・整備について
- 車両受け渡し確認書・保証書の記入・捺印

安全運転の基本として以下は重要です。お守りください。

- この取扱説明書を、よくお読みください
- 取扱説明書の推奨手順に従ってください
- 安全に関する表示を理解し、守ってください

安全に関する表示

「運転者や他の方が傷害を受ける可能性のあること」を回避方法と共に、右記の表示で記載しています。これらは重要です。しっかりお読みください。

 **危険** 指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至るもの

 **警告** 指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至る可能性があるもの

 **注意** 指示に従わないと、傷害を受ける可能性があるもの

その他の表示

アドバイス お車のために守っていただきたいこと

車の仕様、その他の変更により、この本の表紙や内容と実車が一致しない場合があります。

車を譲られる場合、次の方にこの取扱説明書およびメンテナンスノートをお渡しください。

この取扱説明書は、GEAREV を中心に説明しています。イラストは GEAREV をベースにしています。

目次

安全なライディング P. 2

操作ガイド P. 14

メンテナンス P. 50

こんなときは P. 75

インフォメーション P. 83

スペック P. 93

索引 P. 95

安全なライディング

この章では安全な運転のために必要な情報を記載しています。
安全のためによくお読みください。

安全上守っていただきたいこと	P. 3
安全運転のために	P. 6
運転するときの注意	P. 7
アクセサリーと改造について	P. 11
積載について	P. 12

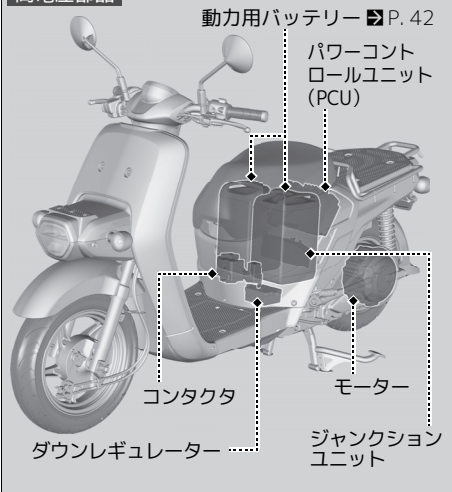
安全上守っていただきたいこと

安全のため、日常的に次の内容をお守りください。

- 道路運送車両法に準じて設けられた日常点検・定期点検を行ってください

電動二輪車の取り扱い

高電圧部品



- この電動二輪車は、灯火器などを作動させる 12 V バッテリーと、モーターを駆動させる高電圧の動力用バッテリーを搭載しており、動力用バッテリーの取り扱いは、動力用バッテリーの取扱説明書に従ってください

アドバイス

車体が水に浸かった場合、動力用バッテリーに水が侵入し、故障する可能性があります。走行をさけ、直ちにご購入店にご相談ください。



この車両の各部位およびそれらを接続する配線（オレンジ色または紫色）には高電圧がかかっており、分解や改造などを行うと感電や発火の原因となり、死亡または重大な傷害に至る可能性があります。

これらの高電圧部に対し、以下のことを守ってください。

- ・ 分解や改造を行わず、触れないこと
- ・ 点検や修理はご購入店に相談すること

● 事故が起きたときには、下記に注意してください

- ▶ 車体が大きく破損・変形するような事故が起きたときは、感電するおそれがあります。高電圧部位やそれらを接続する配線（オレンジ色または紫色）には、絶対に触れないでください。▶ P. 3
- ▶ 電解液が眼や皮膚に付くと、侵されたりヤケドを負いますので、電解液には触れないでください。
万一の場合の応急処置 ▶ P. 55
- ▶ 火災が発生したときは、電気火災用消火器を使用してください。少量の水での消火は、かえって危険な場合があります。万一、消火の際に水を使う場合は、消火栓などから多量の水をかけてください。

 警告

高電圧の動力用バッテリーを使用しているため、事故が起きたときに誤った対応をすると、思わぬ事故を起こす原因となり、死亡または重大な傷害に至る可能性があります。

事故が起きたときは、この取扱説明書に記載された方法・要領に従ってください。

安全運転のために

- 走行中、運転者は両手でハンドルを握り、両足をフロアに置いてください
- 急激なハンドル操作や片手運転などはさけ、安全な運転を心がけてください
- ウインドスクリーン、フェアリングと車体の間に物を置かないでください。
- エンジン音がしないため、周囲の状況に十分注意し、他の車両や歩行者などに対する配慮を欠かさないでください。

乗車時の服装

運転者は必ずヘルメットを着用し、天候や走行状況に応じ、安全性が高く運転操作のしやすい、被視認性の高い二輪車用の服装を着用してください。

Ⅰ ヘルメット

安全基準を満たし、頭のサイズにあった視認性の高いもの

- 二輪車で PSC、SG マークか JIS マークのあるものを推奨します
- 正しくかぶり、あごひもを確実に締めてください

- 視界を妨げないフェイスシールドまたはゴーグルなどを使用し、眼を保護してください

警告

ヘルメットを正しく着用していないと、万一の事故の際、死亡または重大な傷害に至る可能性が高くなります。

運転者は乗車時、必ずヘルメット、保護具および保護性の高い服を着用してください。

Ⅱ グローブ

摩擦に強い皮製のもの

Ⅲ ブーツまたはライディングシューズ

滑りにくく、くるぶしまで覆われたもの

Ⅳ ジャケット・パンツ

プロテクターを備え、体の露出の少ない長袖・長ズボン

運転するときの注意

動力用バッテリー

動力用バッテリーから異臭がしたときは、動力用バッテリーの異状が考えられます。直ちに屋外の安全な場所に車を止めて、火元を遠ざけ、メインスイッチを○(Off)にして、ご購入店にご相談ください。

慣らし運転

適切な慣らし運転を行うと、お車の性能をより良い状態に保つことができます。

■ 慣らしのポイント

(走行距離 100 km まで)

- 急発進、急加速をさける
- 急ブレーキをさける
- 控えめな運転をする

ブレーキ

次の項目に注意してください。

- 制動力を効果的に得るために前輪ブレーキと後輪ブレーキを同時に使う
- 不必要な急ブレーキをしない
 - ▶ タイヤをロックさせるなど、車体の安定性を損なうおそれがあります。
 - ▶ コーナリングの際は、コーナーの手前で減速してください。
- 雨天走行など滑りやすい路面に注意する
 - ▶ タイヤがロックしやすく、制動距離が長くなります。
- 連続したブレーキ操作をしない
 - ▶ 長い坂や急な坂で繰り返しブレーキをかけると、ブレーキの温度が上昇して効きが悪くなるおそれがあります。断続的なブレーキ操作をしてください。

Ⅰ コンビブレーキ

GEAREV

左ブレーキレバーを操作すると、後輪ブレーキが作動すると共に前輪ブレーキが作動し、右ブレーキレバーを操作すると前輪ブレーキが作動します。右ブレーキレバーのみ操作した場合と左ブレーキレバーのみ操作した場合では、制動力が異なるため効き具合に違いがあります。

制動力を効果的に得るためには、右ブレーキレバーと左ブレーキレバーを同時に使う必要があります。

NEWS GEAREV

ブレーキペダルを操作すると、後輪ブレーキが作動すると共に前輪ブレーキが作動し、前輪ブレーキレバーを操作すると前輪ブレーキが作動します。前輪ブレーキレバーのみ操作した場合とブレーキペダルのみ操作した場合では、制動力が異なるため効き具合に違いがあります。

制動力を効果的に得るためには、前輪ブレーキレバーとブレーキペダルを同時に使う必要があります。

Ⅱ 雨天または水たまりを走行したとき

路面が滑りやすくなったり、ブレーキの効き具合が変化します。慎重なブレーキ操作を心がけてください。ブレーキの効きが悪いときは、ブレーキを軽く作動させながらしばらく低速で走行して、ブレーキを乾かしてください。

駐車するとき

- 交通の邪魔にならない平坦で足場のしっかりした安全な場所に駐車する
- やむをえず傾斜地や足場の悪い場所に駐車するときは、車の転倒や動き出しがないよう安全処置に十分注意する
- 盗難防止のため、車から離れるときは必ずハンドルロックをかけ、キーを抜いて、シャッターを閉じる

■ サイドスタンドまたはメインスタンドでの駐車

1. メインスイッチを○(Off)にする。

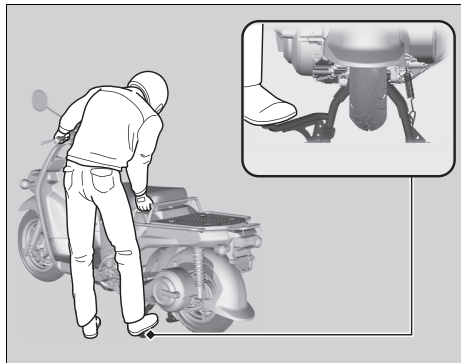
2. サイドスタンドでの駐車

サイドスタンドを下げ、車の重量がサイドスタンドにかかるまで、車をゆっくり左に傾ける。

▶ ハンドルを右にきった状態での駐車は、車が不安定になり、転倒するおそれがあります。

メインスタンドでの駐車

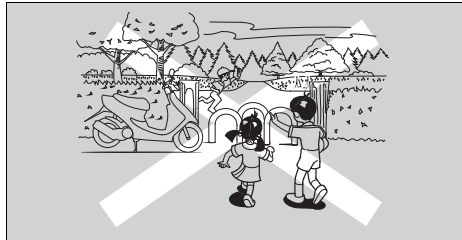
左手でハンドルをまっすぐにし、右手でグリップをしっかりと持ち右足でスタンドを左右同時に地面につけて、立たせる。



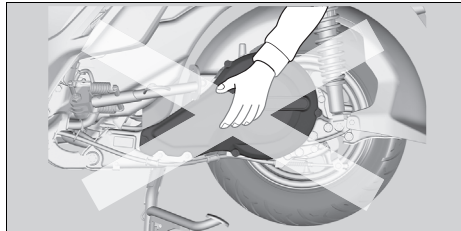
3. ハンドルバーを左いっぱいにする。

4. ハンドルロックをかけ、キーを抜いて、シャッターを閉じる。▶ P. 28

- モーター周辺などが熱くなっているので、他の方が触れることのない場所に駐車する



- モーター回転中および停止後しばらくの間はモーター周辺などに触れない



⚠ 注意

モーター周辺、ブレーキなどは、モーター回転中および停止後しばらくの間は熱くなっています。触れるとヤケドを負う可能性があります。

- ・ モーター周辺、ブレーキなど高温になる部分は冷えるまで触れないこと
- ・ 高温になる部分に可燃物が接触せず、他の方が触れることのないよう配慮すること

アクセサリーと改造について

アクセサリーを装着する際は、安全面からヤマハ純正アクセサリーを推奨します。ご購入店にご相談ください。

ご購入店で取り付けられたヤマハアクセサリーなどの取り扱いについては、その商品に付属の説明書をお読みください。

車の構造や機能に関係する改造は、操縦性を悪化させたり、ひいては車の寿命を縮めることがあります。不正改造は法律に触れることはもちろん、他の迷惑行為となります。

車の改造は保証の適用を除外されます。

警告

不適切なアクセサリーや改造は、万一の事故の際、死亡または重大な傷害に至る可能性が高くなります。

アクセサリーを装着する際は、ご購入店にご相談のうえ、取扱説明書に従ってください。

積載について

- 荷物を積むと積まないときにくらべて操縦安定性が変わるため、安全な速度で走行してください
- 荷物の積みすぎに注意し、確実に固定して安全な速度で走行してください
- フックには、車体からはみ出したり、足に当たるような大きな荷物はかけないでください
 - ▶ 走行やハンドル操作に支障をきたすことがあります。
- ハンドル操作ができなくなる場合があるので、ハンドル付近に物を置かないでください

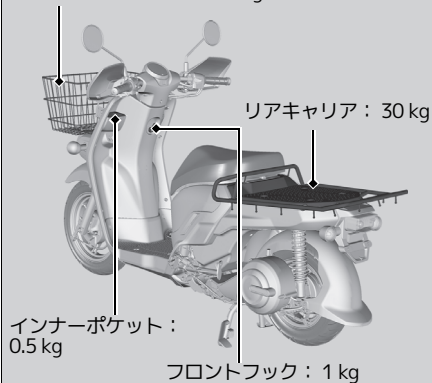
フロントバスケット装着車のみ

- フロントバスケットから荷物をはみ出さないようにしてください
- 走行やハンドル操作に支障をきたすことがあるので、インナーポケットから荷物がはみ出さないようにしてください

- ヘッドライト、ウィンカー、ストップ/テールランプ、モーター周辺への積載はさけてください
 - ▶ 過熱によりレンズが溶けたり、荷物が損傷する場合があります。
- カバー等が破損する場合があるので、指定の場所以外に荷物を積まないでください
 - ▶ 走行やハンドル操作に支障をきたすことがあります。
- 貴重品やこわれやすいものは積まないでください

フロントバスケット装着車のみ

フロントバスケット：10 kg



- 荷物の積載は下記重量までです

▶ 但し、積載物の重量は合計で30kg以下として
ください。

インナーポケット：0.5 kg

フロントフック：1 kg

フロントバスケット：10 kg

(フロントバスケット装着車のみ)

リアキャリア：30 kg

基本操作の流れ

■ モーター起動前 ➡ P.51

運転する前に日常点検を行きましょう。
動力用バッテリー残量を確認しましょう。



■ モーター起動 ➡ P.34

周囲の安全を確認して、モーターを起動します。

基本装備の使いかた

- メーター ➡ P.20
- 警告灯 / 表示灯 ➡ P.26
- スイッチ ➡ P.28
- ハンドルロック ➡ P.30
- シャッター ➡ P.31
- ブレーキロック ➡ P.32
- ➡ P.33

■ 加速 ➡ P.38

発進や加速はスロットルをゆっくり回し、急加速はさけましょう。



■ 発進

後方の安全や周囲の状況に注意し、方向指示器で合図を出し走り出します。



減速 ➡ P.38

STOP!

スロットルを素早く戻し、前後のブレーキの両方を使い速度を下げ、必要な急ブレーキはさけましょう。制動灯（ストップランプ）が点灯し、後車への合図になります。

停止

早めに方向指示器で合図を出し、後方や側方の車に注意しながら、徐々に路肩に寄ります。

充電 ➡ P.42



駐車 ➡ P.9

安全な場所に駐車しましょう。サイドスタンド、メインスタンド、ハンドルロックを確認します。



コーナリング

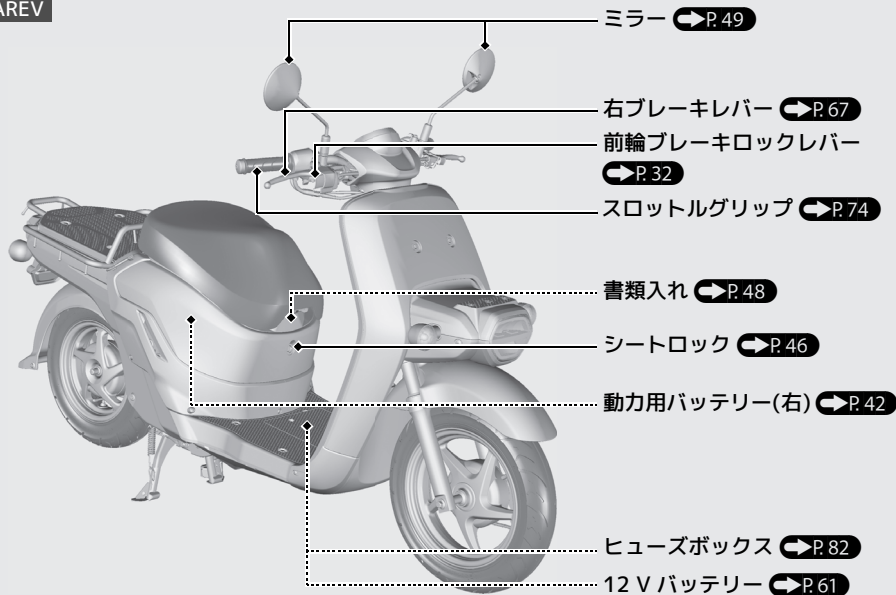
手前で十分に減速して...

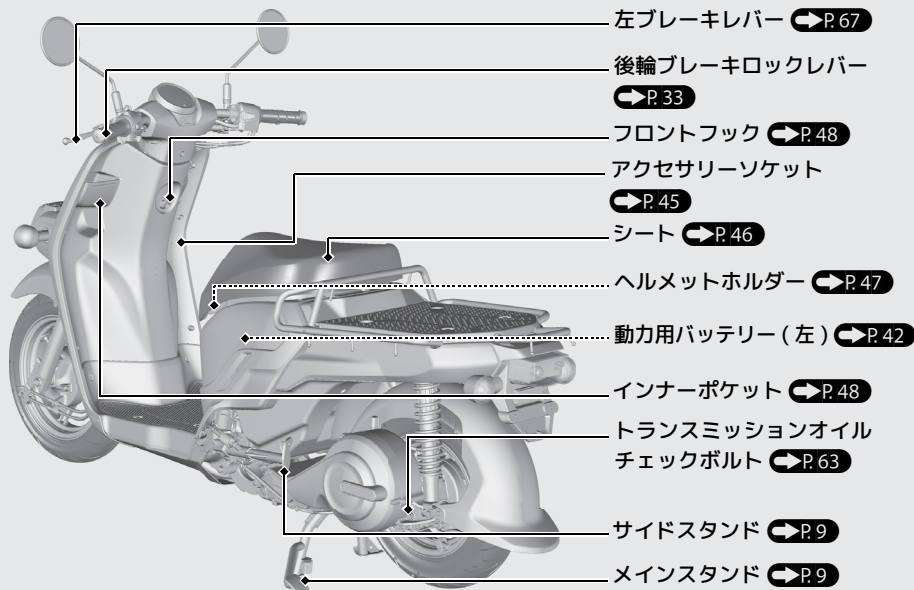


スロットルをゆっくり回して加速します。

各部の名称

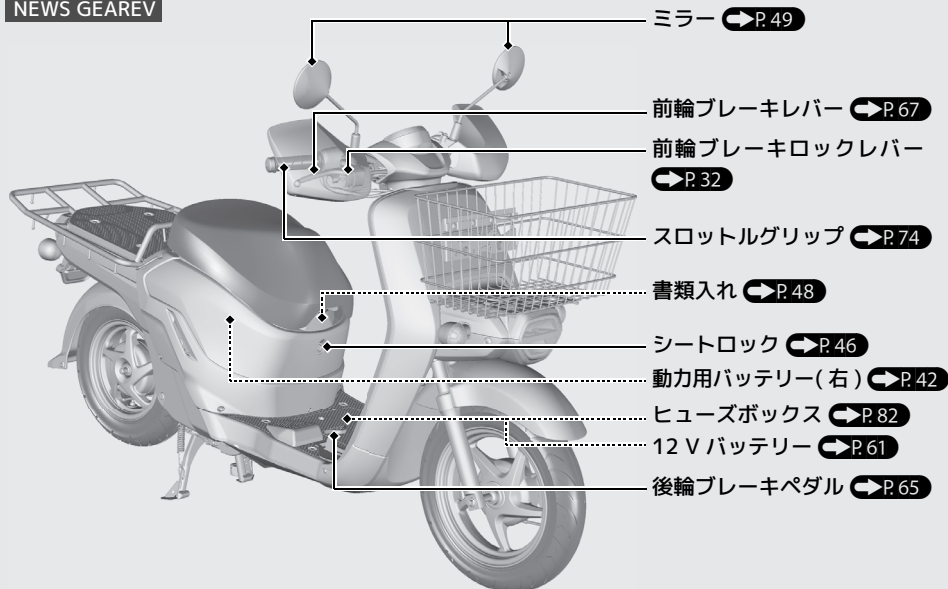
GEAREV

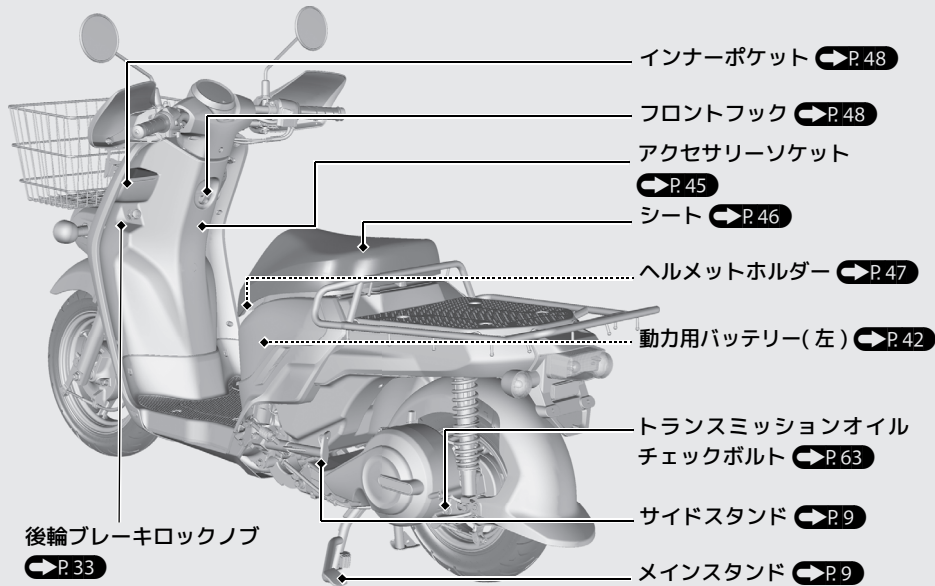




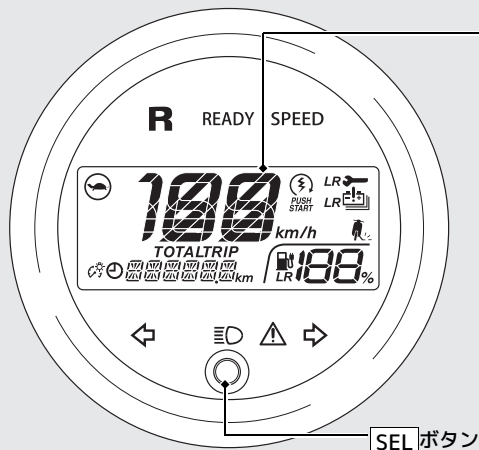
各部の名称 前ページの続き

NEWS GEAREV



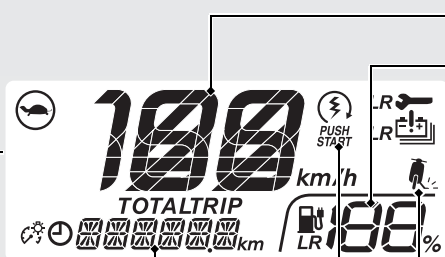


メーター



メーターの初期表示

メインスイッチをI(On)にすると、ディスプレイにオープニング表示があらわれます。表示されない場合は、ご購入店で点検を受けてください。

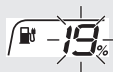


スピードメーター（速度計）

動力用バッテリー残量表示灯

動力用バッテリーの残量を表示します。残量表示灯の減りかたは、使用環境や運転方法によって異なります。残量表示灯が少なくなったときは、早めに充電してください。

- ▶ 動力用バッテリー（右）、動力用バッテリー（左）の少ないほうの残量を表示します。
- ▶ 動力用バッテリー残量が19%以下になると点滅します。



- ▶ 動力用バッテリー（右）もしくは動力用バッテリー（左）のどちらかのバッテリー残量が0%になると走行できなくなります。

動力用バッテリー残量表示灯の故障表示

➡ P.81

オドメーター [TOTAL]、トリップメーター [TRIP]、時計（12 時間表示）

➡ P.23

待機状態表示灯

メインスイッチが〔On〕のときに、モーターの起動が可能になると点滅

待機状態表示等が点滅しないときは ➡ P.76

サイドスタンド表示灯

サイドスタンドが下がっているときに点灯



出力制限状態表示灯

出力制限時に点灯

▶ 以下のいずれかの場合に出力を制限させます。動力性能が低下しますが走行は可能です。また、出力制限が必要なくなると自動的に消灯します。

- PCU またはモーターが高温のとき
- 動力用バッテリーが高温または低温のとき
- 動力用バッテリー残量が少ないとき

登り坂で点灯したときは ➡ P. 80

動力用バッテリー点検灯

動力用バッテリーの容量低下をお知らせします。

▶ 点灯した場合は、ご購入店で点検を行ってください。

動力用バッテリー警告灯

動力用バッテリーの取り付け状態に異常があるときに点滅

▶ 点滅した場合は、動力用バッテリーの取り付け状態を確認してください。 ➡ P. 43

動力用バッテリーに異常があるときに点灯

▶ 点灯した場合は、ご購入店にご相談ください。



オドメーター [TOTAL]、トリップメーター [TRIP]、時計（12 時間表示）

SEL ボタンを押してオドメーターとトリップメーターと時計を切り換える。

- ・ オドメーター：総走行距離
- ・ トリップメーター：トリップメーターを表示中に **SEL** ボタンを押し続け、0.0 km にリセットしてからの走行距離

時計の合わせかた ➡ P.24

“hot”、“R hot”、“R cold”、“L hot” または “L cold” が点滅したときは

➡ P.77

メーター 前ページの続き

時計の合わせかた

- ① メインスイッチを **I**(On) にする。
- ② 時計を表示する。 ➡ P.23
- ③ 時の表示が点滅するまで **SEL** ボタンを押し続ける。
- ④ **SEL** ボタンを押し、時を修正する。



- ⑤ **SEL** ボタンを押し続け、時を決定する。決定と同時に分の表示が点滅する。



- ⑥ **SEL** ボタンを押し、分を修正する。



- ⑦ **SEL** ボタンを押し続け、分を決定する。決定と同時に通常表示に切り換わる。

以下の方法でもメーターの設定から通常表示に戻ることができます。

設定中の項目は破棄され、設定済みの項目のみが反映されます。

- 約 30 秒間スイッチの操作がない場合
- メインスイッチを **O**(Off) にしてから **I**(On) にする

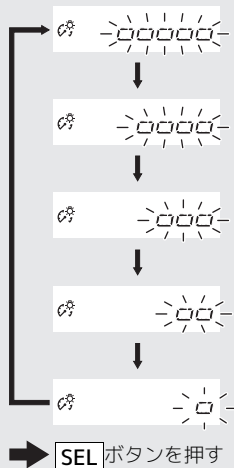
ディスプレイの明るさ調整

明るさを 5 段階で調整できます。

- ① メインスイッチを●(On) にする。
- ② オドメーターを表示する。
- ③ ディスプレイの明るさ調整表示が点滅するまで
SEL ボタンを押し続ける。
- ④ **SEL** ボタンを押し、明るさを調整する。
- ⑤ **SEL** ボタンを押し続け、明るさを決定する。
決定と同時に通常表示に切り換わる。

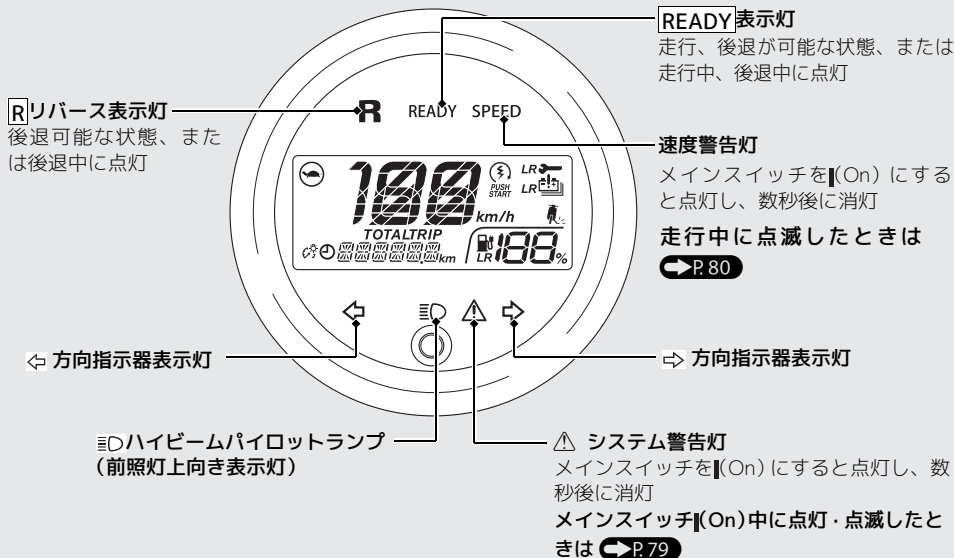
メインスイッチを○(Off) にすることでも設定を確定できます。

設定中に 30 秒間操作がない場合でも、設定は有効となります。

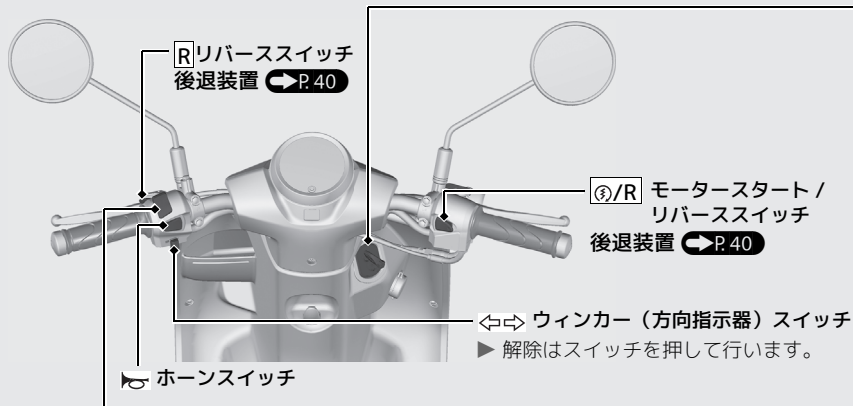


警告灯 / 表示灯

警告灯 / 表示灯が点灯すべきときに点灯しない場合は、ご購入店で点検を受けてください。



スイッチ



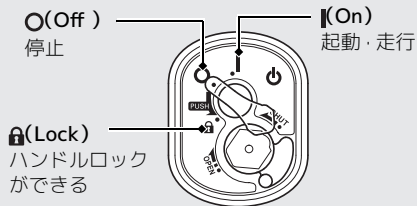
ヘッドライト（前照灯）上下切り換えスイッチ

- ≡D(HI) : ヘッドライトが上向き
- ≡D(LO) : ヘッドライトが下向き

⏻ メインスイッチ

電気回路の ON / OFF、ハンドルロックに使用

- ▶ ○(Off) または 🔒(Lock) の位置で、キーを抜くことができます。



スイッチ 前ページの続き

ハンドルロック

盗難予防のため、駐車するときは必ずハンドルロックをかけ、シャッターを閉じましょう。
U字ロックなどの使用も推奨します。



かけかた

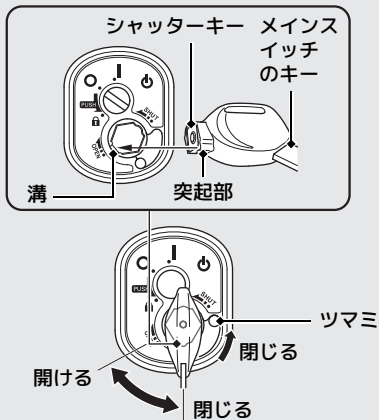
- ① ハンドルを左にいっぱいにする。
- ② キーを押し込みながら、 (Lock) の位置まで回す。
▶ ロックがかかりにくい場合は、ハンドルを左右に軽く動かしてください。
- ③ キーを抜く。

外しかた

キーを押し込みながら、 (Off) の位置まで回す。

シャッター

盗難やいたずら防止のため、メインスイッチにシャッターを装備しています。車から離れるときは必ずシャッターを閉じましょう。



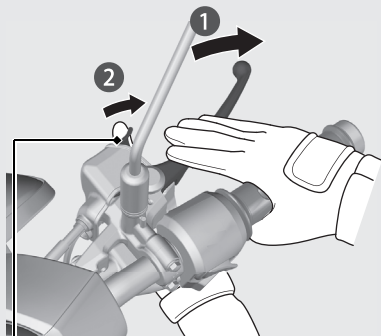
閉じかた

- ① メインスイッチのキーを抜く。
- ② ツマミを上方に動かして閉じる。
▶ シャッターキーの突起部を溝にあわせて差し込み、反時計回りに回すことで閉じることができます。

開けかた

- ① シャッターキーの突起部を溝にあわせて差し込む。
- ② シャッターキーを時計回りに回す。

前輪ブレーキロック



前輪ブレーキロックレバー

かけかた

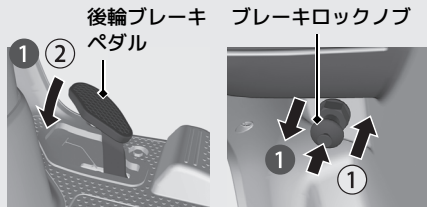
- ① 前輪（右）ブレーキレバーを強く握る。
- ② 前輪ブレーキロックレバーを矢印の方向に動かして保持する。
- ③ 前輪ブレーキロックレバーをセットしたまま前輪（右）ブレーキレバーを放せば、タイヤがロックする。
▶ ブレーキの調整を適切にしないと、ロックされないことがあります。 ➡ P.67

外しかた

前輪（右）ブレーキレバーを強く握ると自動的に前輪ブレーキロックレバーが外れる。

後輪ブレーキロック

NEWS GEAREV



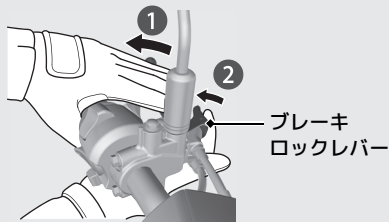
かけかた

- ① 後輪ブレーキペダルを踏み込みながらブレーキロックノブを引く。
- ② タイヤがロックする。
▶ ブレーキの調整を適切にしないと、ロックされないことがあります。 ➡P.65

外しかた

- ① ブレーキロックノブのボタンを押しながらブレーキロックノブを戻す。
- ② 後輪ブレーキペダルを踏む。

GEAREV



かけかた

- ① 左ブレーキレバーを強く握る。
- ② ブレーキロックレバーを矢印の方向に動かして保持する。
- ③ ブレーキロックレバーをセットしたまま左ブレーキレバーを放せば、タイヤがロックする。
▶ ブレーキの調整を適切にしないと、ロックされないことがあります。 ➡P.67

外しかた

左ブレーキレバーを強く握ると自動的にブレーキロックレバーが外れる。

モーター起動

モーターを起動すると走行可能となります。

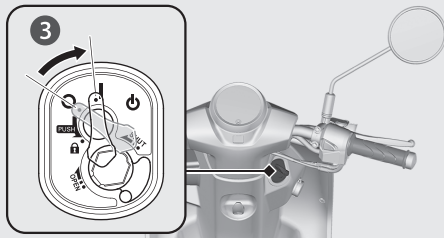
この車は、モータードライブカットオフ式サイドスタンドを装備しています。

- ▶ サイドスタンドを出したままでは、モーターが起動しません。モーターを起動する前に、必ずサイドスタンドを格納してください。
- ▶ モーターが起動しているときにサイドスタンドを使用すると、モーターは回転しません。

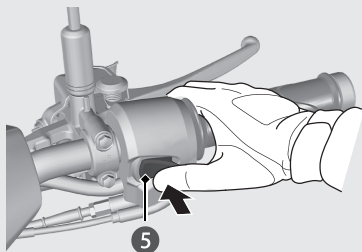
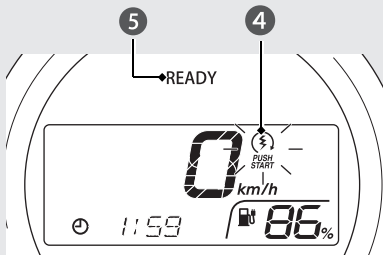
アドバイス

万一転倒した場合は、一旦メインスイッチを○(Off) にしてください。再度走行を行う際は、各部の損傷状態や、走行に支障が無いかを十分に確認してください。

- 1 メインスタンドを立てる。 ➡ P.9
- 2 後輪ブレーキロックをかけ、タイヤをロックする。 ➡ P.33
- 3 メインスイッチをI(On) に回す。



- ④ 待機状態表示灯が点滅することを確認する。
- ▶ 待機状態表示灯が点滅しないとモーターは起動できません。
- 待機状態表示灯が点滅しないときは
➡P.76



■ モーターが起動しないときは ➡P.76

- ⑤ スロットルグリップを完全に閉じたまま、モータースタート/リバーススイッチを押す。
- ▶ モーターが起動すると、**READY**表示灯が点灯し走行可能となります。 ➡P.36
 - ▶ **READY**表示灯が点灯したらモータースタート/リバーススイッチから手をはなしてください。

正しい運転の操作

スタートの手順

走行前に**READY**表示灯が点灯していることを確認してください。

点灯していない場合、モーターは回転しません。モーターを起動してください。➡P.34

① ブレーキロックが外れないように注意しながら、車を前にゆっくり押してメインスタンドを外す。

▶ 乗車する前に、サイドスタンド、メインスタンドは完全に納まっているか確認してください。

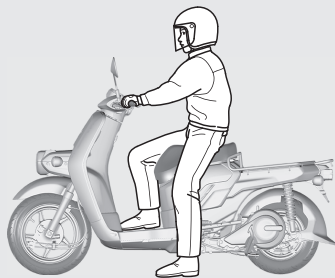
▶ モーターを起動してから走り出すまでは、スロットルグリップをむやみに回さないでください。

② サイドスタンドが格納されていることを必ず確認する。

▶ サイドスタンドを出したままの状態ではスロットルグリップの操作をしないでください。

③ 車の左側から乗車し、正しい乗車姿勢でシートにしっかりと腰をおろす。このとき足で車が倒れないように支える。

▶ 乗車してスタートするまではブレーキロックは外さないでください。

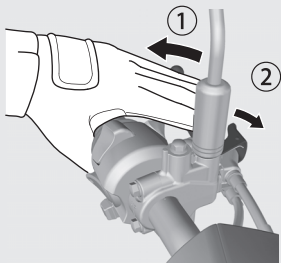


4 ブレーキロックを外す。

GEAREV

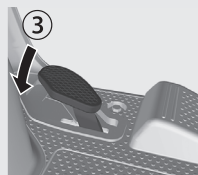
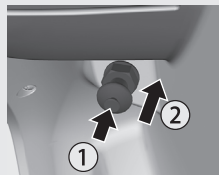
左ブレーキレバーを強く握る(①)とブレーキロックレバーが自動的に外れる(②)。

▶ ブレーキロックレバーを外すときは、スロットルグリップを回さないでください。飛び出しなどの危険性があります。



NEWS GEAREV

ブレーキロックノブボタンを押しながら(①)ブレーキロックノブを戻して(②)後輪ブレーキペダルを踏む(③)。



正しい運転の操作 前ページの続き

- ⑤ 前輪ブレーキロックレバーが外れていることを確認する。 ➡ P.32

▶ 前輪ブレーキロックレバーを外すときは、スロットルグリップを回さないでください。

飛び出しなどの危険性があります。

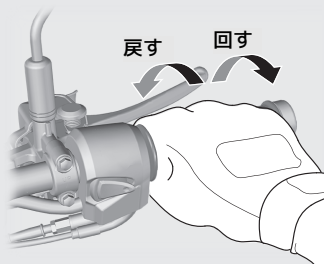
- ⑥ スロットルグリップをゆっくり回し、発進する。

▶ スロットルグリップをいきなり手前に回すと急加速して危険です。

スロットルグリップで速度調整を行う。

加速する … スロットルをゆっくり回す。

減速する … スロットルをすばやく戻す。



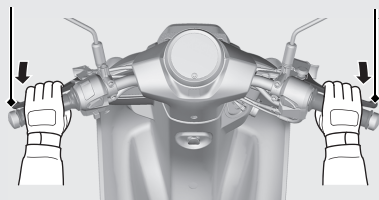
ブレーキの使いかた

走行中は、ブレーキロックを操作しないでください。

GEAREV

左ブレーキレバー

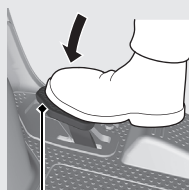
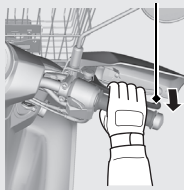
右ブレーキレバー



ブレーキは、右ブレーキレバーと左ブレーキレバーを同時に使いましょう。

NEWS GEAREV

前輪ブレーキレバー



後輪ブレーキペダル

ブレーキは、前輪ブレーキレバーと後輪ブレーキペダルを同時に使いましょう。

後退装置

この車両には、平坦地において車両を微速で後退させる装置がついています。

後退するときは、周囲に人や障害物がない場所で行ってください。

急な坂道やでこぼこのある路面では行わないでください。後退装置は一定速度で車を動かすように設計されています。急な坂道や障害物のために後退しない場合は後退装置の過負荷を防止するため、一旦モータースタート / リバーススイッチまたはリバーススイッチを離して後退装置を終了させてください。

障害物がない平坦地に車両を移動してから再度後退装置を作動させてください。

- 1 車両を停止させてシートにしっかりと腰をおろし、両足を地面に付ける。
- 2 メインスタンド、サイドスタンドが完全に格納されていることを確認する。
- 3 メインスイッチを **I**(On) にする。

4 GEAREV

前輪または後輪ブレーキレバーを握った状態で、モータースタート / リバーススイッチを押し、モーターを起動する。

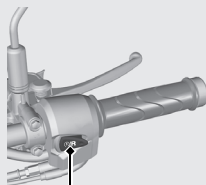
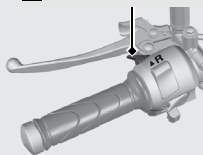
▶ **READY** 表示灯が点灯します。

NEWS GEAREV

前輪ブレーキレバーを握った状態、または後輪ブレーキペダルを踏んだ状態で、モータースタート / リバーススイッチを押し、モーターを起動する。

▶ **READY** 表示灯が点灯します。

R リバーススイッチ

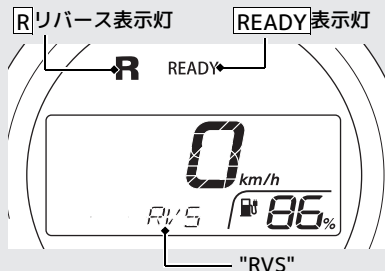


⑤/R モータースタート / リバーススイッチ

- 5 リバーススイッチまたはモータースタート / リバーススイッチのどちらか片方のスイッチを押す。

スイッチを押している間は、後退の待機状態となり、スロットルを開けても前進しません。

- ▶ 後退の待機状態になると **R** リバース表示灯が点灯し、メーターに "RVS" が点滅します。



- 6 車両を後退させるには、リバーススイッチとモータースタート / リバーススイッチを両方押す。

- ▶ 両方のスイッチを押している間、車両は後退します。

片方のスイッチ操作のみでは後退しません。

- ▶ スロットルが開いていると後退装置が作動しません。

- 7 車両が動いている間は、両足を使って車両バランスを保ってください。砂、土、砂利などの柔らかい路面や、滑りやすい路面の上では特に慎重に車両バランスを保ってください。

- 8 リバーススイッチまたはモータースタート / リバーススイッチを離して車両を止める。

- 9 リバーススイッチとモータースタート / リバーススイッチを両方離す。
後退装置の作動が解除され、前進が可能となります。

動力用バッテリー

本機の動力用バッテリーは、ヤマハ指定の動力用バッテリーを使用してください。

本機で使用する以外の用途で、動力用バッテリーを使用しないでください。

動力用バッテリーの取り扱いについては、動力用バッテリーの取扱説明書に従ってください。



動力用バッテリーは不適当な扱いをすると、感電や発火などを起こす原因となり、死亡または重大な傷害に至る可能性があります。

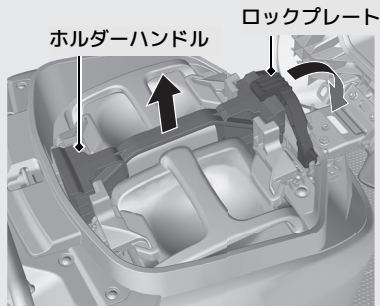
動力用バッテリーの取扱いは、動力用バッテリーの取扱説明書に記載された方法・要領に従ってください。

動力用バッテリーの脱着方法

動力用バッテリー脱着の際に、大きな衝撃を加えないでください。車両や動力用バッテリーの破損の原因となります。

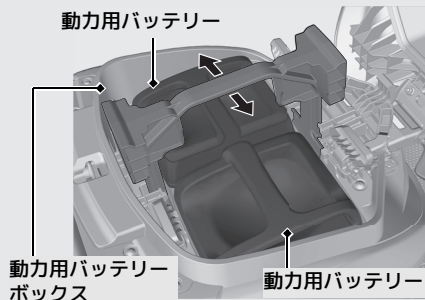
取り外し

1. シートを開ける。 ➡ P.46
2. ロックプレートを倒す。
3. ホルダーハンドルを持ち上げる。



4. 右側の動力用バッテリーは、ホルダーハンドルを左に傾けて、動力用バッテリーを取り外す。

左側の動力用バッテリーは、ホルダーハンドルを右に傾けて、動力用バッテリーを取り外す。



動力用バッテリー 前ページの続き

取り付け

取り付けは、取り外しの逆の手順で行います。

- ▶ シートを閉じる前に、ロックプレートを起こし、ロックプレートが確実に固定されていることを確認してください。

アドバイス

ホルダーハンドルやロックプレートに必要な以上の荷重をかけないでください。ホルダーハンドルやロックプレートが変形し、故障の原因となる場合があります。

- ▶ 本機にはヤマハ指定の動力用バッテリー以外使用しないでください。
- ▶ 動力用バッテリーボックス内のプラグ（端子）を直接手で触れたり、工具などの金属で触れないでください。
- ▶ 動力用バッテリーの取り付け向きは、動力用バッテリーボックス内のラベルに合わせ確実に取り付けてください。
- ▶ 動力用バッテリーボックス内や動力用バッテリーの端子に異物がないか確認してください。



警告

動力用バッテリーボックス内に異物がある状態で動力用バッテリーの取り付けを行うと発煙や発火の原因となり、重大な傷害や死亡に至る可能性があります。

必ず異物の有無を確認し、異物がある場合は取り除いてください。もし取り除けない場合は無理に取らず、ご購入店にご相談ください。

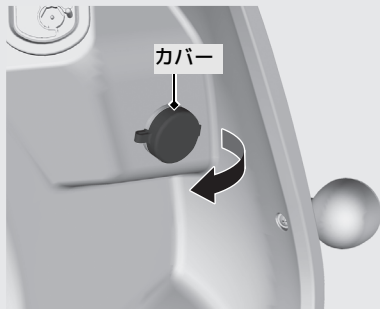
アクセサリースOCKET

アクセサリースOCKETは、メインスイッチの下にあります。

接続する機器についてはご自身の責任でお使いください。

カバーを開けてお使いください。

定格 24 W (12 V、2 A) まで使用できます。

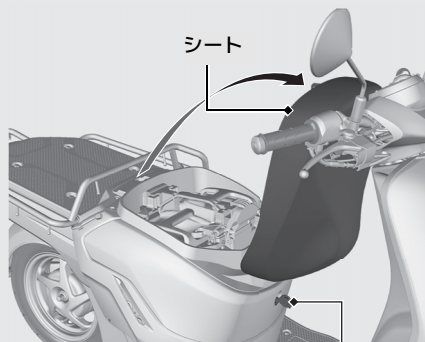


- ▶ アクセサリースOCKETはメインスイッチを「On」にすると使用できます。
- ▶ SOCKETへの異物侵入を防ぐために、使用しないときはカバーを閉めてください。
- ▶ 走行中に動いたり、振動による損傷を与えないように、機器をしっかりと固定してください。

アドバイス

- 発熱する機器や定格以上の機器を使用しないでください。
- SOCKETが濡れた状態では使用しないでください。
- 機器のケーブルが挟まれたり絡まったりしないようにしてください。
- 機器のケーブルがハンドル操作や運転の妨げにならないようにしてください。

その他装備の使いかた



シートの開けかた

- ① ハンドルを直進状態にする。
- ② メインスイッチのキーをシートロックに差し込む。
- ③ メインスイッチのキーを時計回りに回して、シートを開ける。

シートの閉じかた

シートをおろし、シート後部を上から押してロックします。

シートを軽く持ち上げて、ロックがかかっていることを確認してください。

メインスイッチのキーをシート下に置き忘れた状態でシートをロックすると、キーが取り出せなくなりますのでご注意ください。

警告

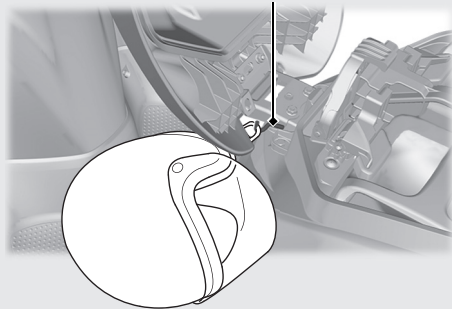
動力用バッテリーを覆ったり、上にものを載せると破裂や発火などを起こす原因となり、死亡または重大な傷害に至る可能性があります。

動力用バッテリーを覆ったり、上にものを載せないでください。

ヘルメットホルダー

シート下にヘルメットホルダーがあります。

ヘルメットホルダー



▶ ヘルメットホルダーは駐車時のみお使いください。

シートの開けかた ➡ P.46

ヘルメットの金具をヘルメットホルダーにかけます。

⚠ 警告

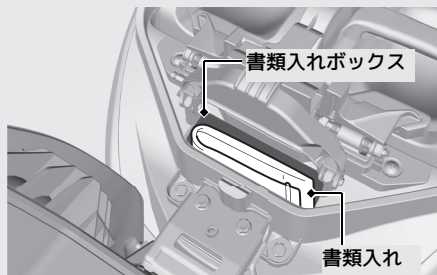
ヘルメットホルダーにヘルメットをつけたまま走行しないでください。

走行の妨げになり、重傷を負ったり死亡したりする事故が発生することがあります。

その他装備の使いかた 前ページの続き

書類入れボックス

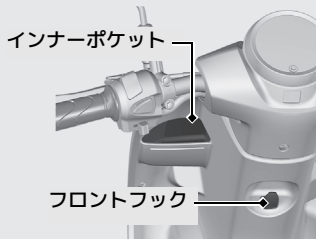
シート下前方に書類入れボックスがあります。



シートの開けかた ➡ P.46

フロントフック・インナーポケット

ハンドル下方にフロントフック、下左側にインナーポケットがあります。



- ▶ フロントフックには車体からはみ出したり、足に当たるような大きな荷物はかけないでください。走行やハンドル操作に支障をきたすことがあります。

NEWS GEAREV

また、ブレーキペダルの操作に支障をきたすことがあります。

アドバイス

インナーポケット内に貴重品やこわれやすいものは入れないでください。

ミラーのアーム

ミラーのアームの角度はロックナットをゆるめないで調節することができます。

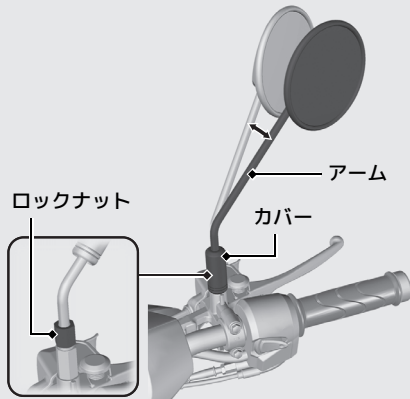
調節のしかた

後方の安全を十分確認できる位置までアームを持って調節する。

アドバイス

カバー内側のロックナットはゆるめないでください。

アームの保持力が低下した場合は、ご購入店にご相談ください。



メンテナンス

メンテナンスを行う前に必ず「メンテナンスの基礎知識」をお読みください。
また、サービスデータについては「スペック」を参照ください。

メンテナンスの基礎知識.....	P. 51
主要部品の脱着方法.....	P. 61
12 V バッテリー.....	P. 61
トランスミッションオイル.....	P. 63
ブレーキ.....	P. 65
スロットル.....	P. 74

メンテナンスの基礎知識

メンテナンスの重要性

お車をご使用の方の安全と車を快適にご使用いただくために、日常のお車の使用状況に応じて、お客様の判断で適時行っていただく日常点検と、1年ごと（12 か月ごと）、2年ごと（24 か月ごと）の定期点検整備を設けてあります。安全快適にお乗りいただくために、必ず実施してください。



警告

誤った点検整備や、不適当な整備、未修理は、転倒事故などを起こす原因となり、死亡または重大な傷害に至る可能性があります。

- ・点検整備は、取扱説明書・メンテナンスノートに記載された点検方法・要領を守り、必ず実施してください。
- ・異状箇所は乗車前に修理してください。

安全なメンテナンスのために

メンテナンスにあたっては、次のことに注意してください。

- キーを抜いた状態で行う
- 平坦地で足場のしっかりとした場所で行う
- モーター周辺、ブレーキなど高温になる部分はヤケドのおそれがあるので、冷えるまで触れない

日常点検

安全快適にご使用いただくために法令に準じ、日常のお車の使用状況に応じて、お客様の判断で適時行う点検です。

点検時期の目安としては、長距離走行や洗車時などに実施し、その結果をメンテナンスレコードに記入してください。

異音や異状を感じたときは、直ちにご購入店にご相談ください。

Ⅰ 日常点検項目

この車には下記の日常点検項目が適用されます。

● ブレーキ

- ・ レバーの遊び（機械式）
- ・ **NEWS GEAREV**
ペダル遊び（機械式）
- ・ ブレーキの効き具合

● タイヤ

- ・ 空気圧
- ・ 亀裂、損傷
- ・ 異状な摩耗
- ・ 溝の深さ

● モーター

- ・ 異音
- ・ 低速、加速の状態

● 灯火装置および方向指示器

● 運行において異状が認められた箇所

定期点検

安全快適にお車をご使用いただくために、定期点検を必ず実施してください。

また、これらの他にも使い始めてから1か月目（または、1,000 km 時）に行う点検、ヤマハが指定する点検整備項目もあります。

Ⅰ 道路運送車両法に準じて設けられた点検

道路運送車両法に準じて設けられた点検には、以下の種類があります。

- 日常点検
- 1年ごと（12 か月ごと）に行う点検
- 2年ごと（24 か月ごと）に行う点検

■ ご自身で点検を実施する場合

安全のため、ご自分の知識と技量に合わせた範囲内で行ってください。難しいと思われる内容については、ご購入店にご相談ください。

点検結果は、メンテナンスノートの定期点検整備記録簿に記入し、大切に保存、携行してください。

■ 1 か月目点検について

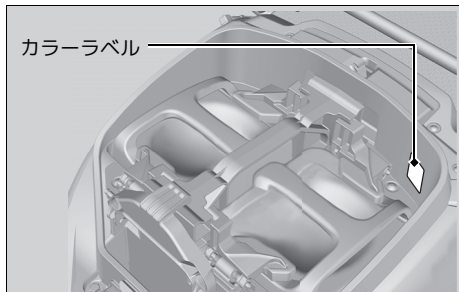
新車から 1 か月目（または、1,000 km 時）は、特に初期の点検整備が車の寿命に影響することを重視し、点検を無料でお取り扱いいたします。お買いあげのご購入店で行ってください。他の販売店にてお受けになると有料となる場合があります。また、オイル代、消耗部品代および交換工賃等は実費をいただきます。詳細については、メンテナンスノートをご覧ください。

■ 交換部品について

整備の際は、ヤマハ純正部品を使用してください。

色物部品をご注文のときは、カラーラベルに記載されているモデル名、カラーおよびコードをお知らせください。

カラーラベルは、シートを開けると確認できます。▶ P. 46



⚠ 警告

ヤマハ純正部品以外のアクセサリ・部品の使用や、不正な改造は思わぬ事故の原因となり、重傷を負ったり、死亡したりすることがあります。

ヤマハ純正部品を使用してください。

動力用バッテリー

動力用バッテリーは長期間使用していると、少しずつ容量が低下します。そのため新車でお使いはじめの頃と比較すると、走行距離が短くなります。動力用バッテリーが一定容量以上低下すると、動力用バッテリー点検灯が点灯します。ご購入店で点検を行ってください。

■ 万一の場合の応急処置

以下のようなときは、応急処置したあと、直ちに医師の診察を受けてください。

- 電解液が眼に付着したとき
 - ▶ コップなどに入れた水で、15 分以上洗浄してください。加圧された水での洗浄は、眼を痛めるおそれがあります。
- 電解液が皮膚に付着したとき
 - ▶ 電解液のついた服を脱ぎ、皮膚を多量の水で洗浄してください。
- 電解液を飲み込んだとき
 - ▶ 水、または牛乳を飲んでください。



警告

動力用バッテリーには、可燃性の有機溶剤が電解液として含まれています。誤った取り扱いをすると、ヤケドや重大な傷害に至る可能性があります。

- ・ 動力用バッテリーを火花、火気、高温になる熱源に近づけない。
- ・ 動力用バッテリーを子供の手の届く所に置かない。
- ・ 動力用バッテリーの分解や改造をしない。
- ・ 動力用バッテリーに衝撃をあたえない。

12 V バッテリー

この車は、メンテナンスフリータイプの 12 V バッテリーを使用しており、12 V バッテリー液の点検、補給は必要ありません。12 V バッテリーのターミナル部に汚れや腐食がある場合のみ清掃してください。

また、密閉式の液口キャップは絶対に取り外さないでください。12 V バッテリー充電時も液口キャップを取り外す必要はありません。

アドバイス

12 V バッテリーには寿命があります。交換時期については、ご購入店にご相談ください。交換する場合は、必ず同型式のメンテナンスフリー 12 V バッテリーを使用してください。

Ⅰ 万一の場合の応急処置

以下のようなときは、応急処置したあと、直ちに医師の診察を受けてください。

- 電解液が眼に付着したとき
 - ▶ コップなどに入れた水で、15 分以上洗浄してください。加圧された水での洗浄は、眼を痛めるおそれがあります。

- 電解液が皮膚に付着したとき
 - ▶ 電解液のついた服を脱ぎ、皮膚を多量の水で洗浄してください。
- 電解液を飲み込んだとき
 - ▶ 水、または牛乳を飲んでください。

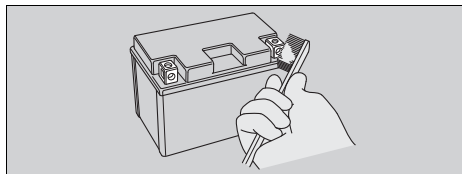
警告

12 V バッテリーには、希硫酸が電解液として含まれています。希硫酸は腐食性が強く、眼や皮膚に付着すると重いヤケドを負います。

- ・ 12 V バッテリーの近くで作業するときは、保護メガネと保護服を着用
- ・ 12 V バッテリーを子供の手の届く所に置かない
- ・ ショートによる火花やたばこなどの火気に十分注意する

■ ターミナル部の清掃

1. 12 V バッテリーを取り外す。➡ P. 61
2. ターミナル部が腐食して白い粉が付いている場合は、ぬるま湯を注いで拭く。
3. ターミナル部の腐食が著しいときは、ワイヤーブラシまたはサンドペーパーで磨く。



4. 清掃後、12 V バッテリーを取り付ける。

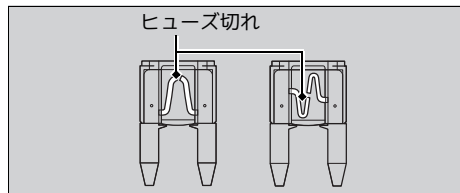
電装部品やアクセサリを取り付けるときは純正アクセサリをご使用ください。それ以外のものを使用すると 12 V バッテリーあがりや故障の原因となります。

ヒューズ

この車の電気回路は、ヒューズで保護されています。電装部品が動作しないときは、ヒューズを調べ、必要に応じて交換してください。➡ P. 82

■ ヒューズの点検・交換

メインスイッチを○(Off)にして、ヒューズを取り外して点検します。切れている場合は、指定されている容量のヒューズと交換してください。ヒューズの容量はスペックページをご確認ください。➡ P. 94



アドバイス

指定容量を超えるヒューズを使用すると、配線の過熱焼損の原因になるので絶対に使用しないでください。

交換してもすぐにヒューズが切れる場合は、ヒューズの劣化以外の原因が考えられます。ご購入店にご相談ください。

トランスミッションオイル

トランスミッションオイルの選びかた

推奨トランスミッションオイル：

ヤマルーブ レッド バージョン フォー スクーター

相当品をご使用の場合は、オイル容器の表示を確認し、下記の全ての規格を満たしているオイルをお選びください。全ての規格を満たしている場合でも特性が異なりこの車に適合しない場合があります。

- JASO T 903 規格^{*1}： MB
- SAE 規格^{*2}： 10W-30
- API 分類^{*3}： SJ 級以上

^{*1}. JASO T 903 規格は、二輪車用4サイクルエンジンオイルの性能を分類する規格です。適合し届け出されたオイルの容器には、次の表示があります。



上段：オイルコード

下段：性能分類の表示

MB 性能であることを示しています

^{*2}. SAE 規格は、オイルの粘度を定めた規格です。

^{*3}. API 分類は、エンジンオイルのグレードに関する分類です。API マークの入っている相当品を使用する場合、下記のものをご使用ください。



推奨しません



推奨します

タイヤ

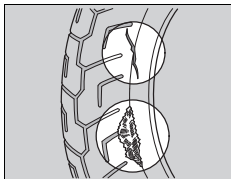
■ 空気圧の点検

タイヤの空気圧は徐々に低下します。また、タイヤによっては空気圧不足が見た目ではわかりづらいため、少なくとも1か月ごとにタイヤゲージを使用して空気圧を点検してください。

タイヤは、走行後は温まり空気圧が高くなる場合がありますので、必ず冷えた状態で点検してください。

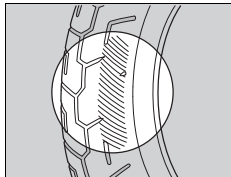
■ 亀裂と損傷の点検

タイヤの全周に、亀裂や損傷、ひび割れおよび釘、石、その他の異物が刺さったり、かみ込んだりしていないかを点検します。道路の縁石などにタイヤ側面を接触させたり、大きな凹みや突起物を乗り越えたときは、必ず点検してください。



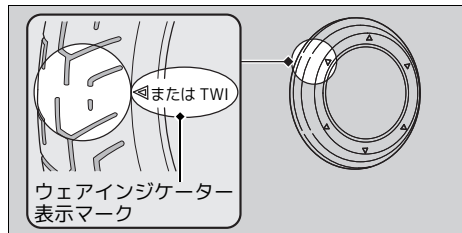
■ 異状な摩耗の点検

タイヤの接地面が異状に摩耗していないかを点検します。



溝の深さの点検

ウェアインジケーター（スリップサイン）により溝の深さを確認します。サインが現れたときは、直ちに交換してください。



⚠ 警告

過度にすり減ったタイヤの使用や、不適正な空気圧での運転は、転倒事故などを起こす原因となり、死亡または重大な傷害に至る可能性があります。

取扱説明書に記載されたタイヤの空気圧を守り、規定の数値を超えてすり減ったタイヤは交換してください。

タイヤを交換するときは、必ず指定タイヤを使用してください。指定以外のタイヤは、操縦性や走行安定性に悪影響を与えることがありますので使用しないでください。

タイヤの交換は、ご購入店にご相談ください。指定タイヤ、空気圧はスペックページをご確認ください。▶ P. 93

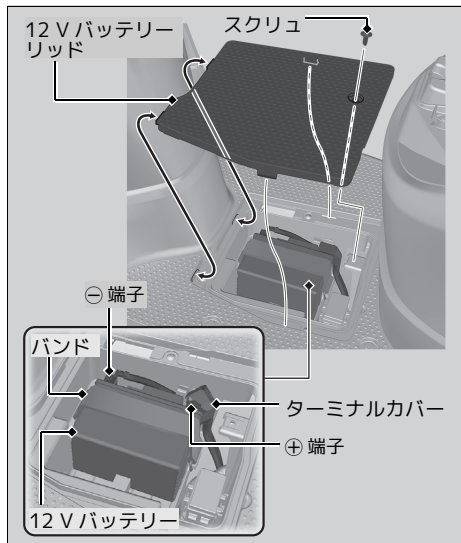


警告

指定以外のタイヤを取り付けると、操縦性や走行安定性に悪影響を与えることがあります。また、そのことが原因で転倒事故などを起こし、死亡または重大な傷害に至る可能性があります。

タイヤ交換時には、必ず取扱説明書に記載された指定タイヤを取り付けてください。

12 V バッテリー



Ⅰ 取り外し

メインスイッチが○(Off) になっていることを確認してください。

1. スクリューを外して、12 V バッテリーリッドを取り外す。
2. バンドを取り外す。
3. ⊖ 端子のボルトを外し、⊖ コードを外す。
4. ターミナルカバーをめくり、⊕ 端子のボルトを外し、⊕ コードを外す。
5. 端子のナットを落とさないように 12 V バッテリーを取り出す。

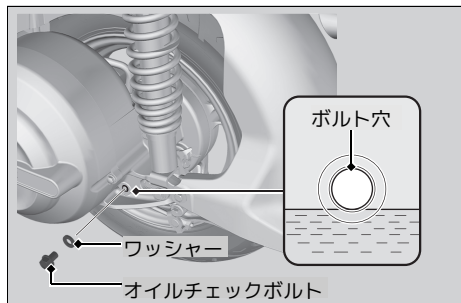
■ 取り付け

取り付けは、取り外しの逆の手順で行います。
12 V バッテリーコードは、必ず先に⊕側より取り付けてください。また、ターミナル部にゆるみが生じないように、確実にボルトを締め付けてください。

12 V バッテリーコードを再び取り付けたときに、時計の表示がずれている場合は合わせ直してください。 ■ P. 24

12 V バッテリーの取り扱いについてはメンテナンスの基礎知識をご確認ください。 ■ P. 55

オイルの量の点検



1. 足場のしっかりとした平坦地にメインスタンドを立てる。
2. オイルチェックボルト、ワッシャーを外す。
3. オイルがボルト穴の下端まであることを油面の位置で確認する。
4. ワッシャーを新品に交換し、オイルチェックボルトを確実に取り付ける。

オイルの補給

オイルの油面が低い場合は、推奨オイルをボルト穴の下端まで補給してください。

- 上限を超えて補給しない
- ゴミが入らないようにする
- オイルをこぼしたときは完全に拭き取る

アドバイス

オイルは規定量より多くても少なくても、トランスミッションに悪影響を与えます。また銘柄やグレードの異なるオイルを混用しないでください。

推奨トランスミッションオイルやオイルの選びかたについてはメンテナンスの基礎知識をご確認ください。▶ P. 57

オイル漏れの点検

トランスミッションケースなどから、オイルが漏れていないことを確認します。

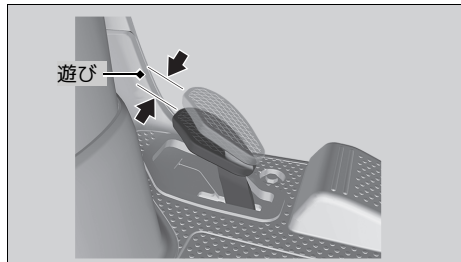
後輪ブレーキペダルの遊びの点検

NEWS GEAREV

抵抗を感じるまで、手でブレーキペダルを押し、ペダル先端の遊びの量が規定の範囲内にあることをスケールなどで確認します。

後輪ブレーキペダルの遊び：

20 - 30 mm

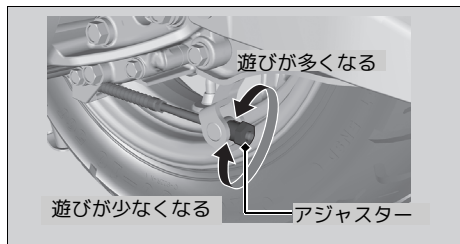


規定の範囲を超えている場合は調整してください。

後輪ブレーキペダルの遊びの調整

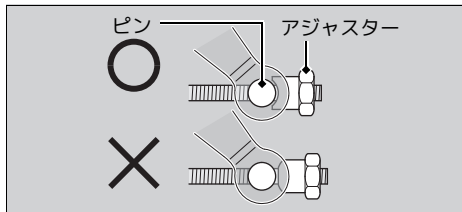
NEWS GEAREV

1. ブレーキアームのアジャスターを半回転ずつ回し、ブレーキペダルの遊びを調整する。

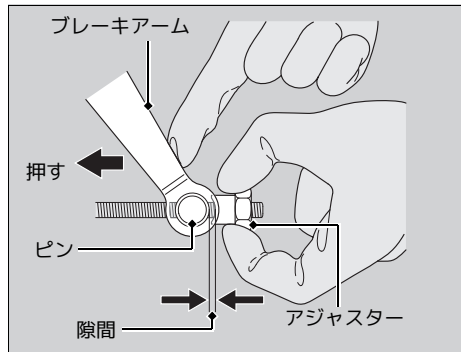


ブレーキ ▶ 後輪ブレーキペダルの遊びの調整

遊びの調整時は必ず、アジャスターの凹部をピンの凸部に一致させてください。



2. ブレーキアームを押してアジャスターとピンの間に隙間があることを確認する。



調整後は、ブレーキペダルの遊びを確認してください。

ブレーキペダルの調整範囲を超えた場合は、ご購入店にご相談ください。

ブレーキの遊びの点検

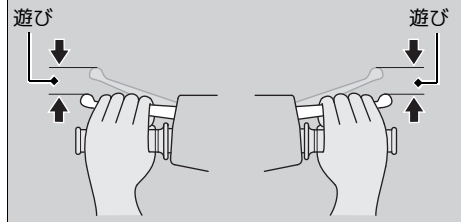
GEAREV

NEWS GEAREV (前輪のみ)

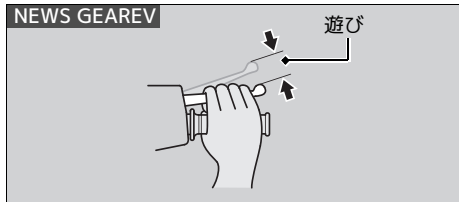
抵抗を感じるまで、ブレーキレバーを引き、レバー先端の遊びの量が規定の範囲内にあることをスケールなどで確認します。

ブレーキレバーの遊び：10 - 20 mm

GEAREV



NEWS GEAREV



規定の範囲を超えている場合は調整してください。

ブレーキの遊びの調整

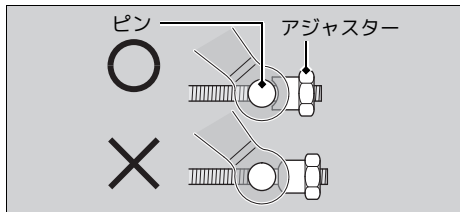
NEWS GEAREV (前輪のみ)

ブレーキの遊びはハンドルを直進状態にして調整します。

GEAREV

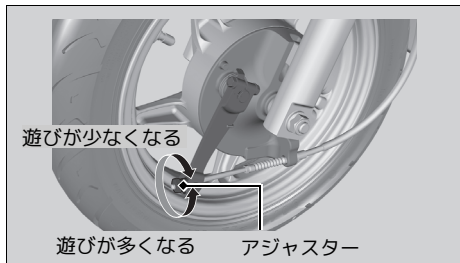
ブレーキの遊びはハンドルを直進状態にして前輪ブレーキ、後輪ブレーキの順に調整します。

遊びの調整時は必ず、アジャスターの凹部をピンの凸部に一致させてください。

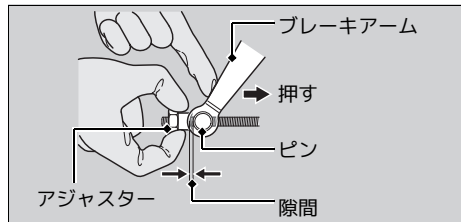


NEWS GEAREV (前輪のみ)

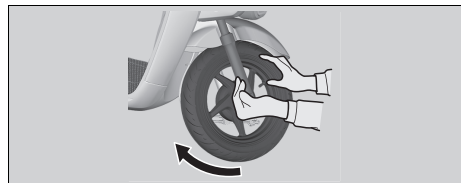
1. 前輪のアジャスターを半回転ずつ回し、前輪ブレーキレバーの遊びを調整する。



2. 前輪のブレーキアームを押し、アジャスターとピンの間に隙間があることを確認する。



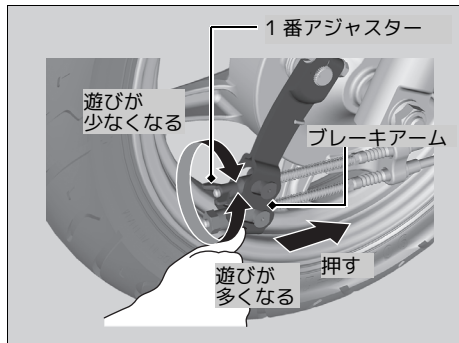
3. 前輪のタイヤを回し、ブレーキの引きずりがないことを確認する。



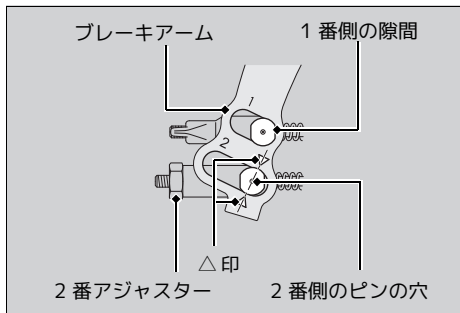
調整後は、前輪ブレーキレバーの遊びを確認してください。

GEAREV

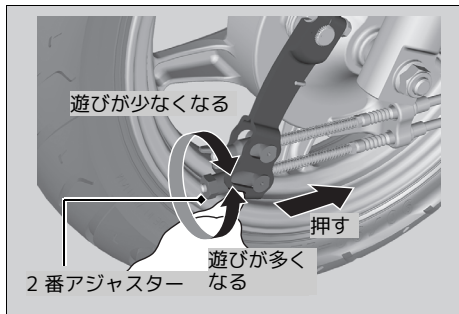
1. 前輪のブレーキアームを強く押しながら、1番アジャスターを半回転ずつ回し、右ブレーキレバーの遊びを調整する。



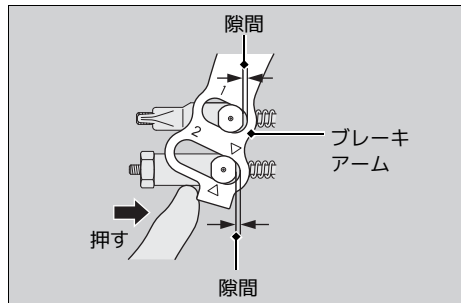
2. 前輪のブレーキアームを押さない状態で、ブレーキアームの△印と2番側のピンの穴が一直線上に並ぶように2番アジャスターを調整する。また、ブレーキアームと1番側のピンの間に隙間がないことを確認する。



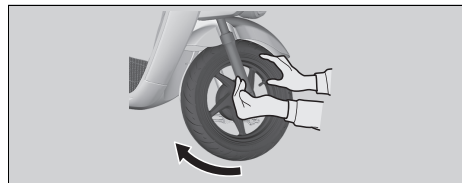
- 2番側の調整は、前輪のブレーキアームを強く押しながら、2番アジャスターを半回転ずつ回して行う。



3. 前輪のブレーキアームを押し、ブレーキアームと1番側および2番側のピンの間に隙間があることを確認する。

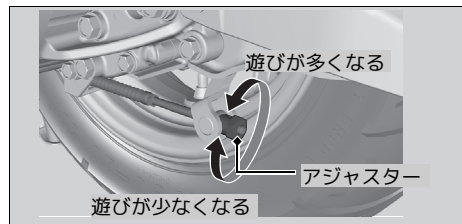


4. 前輪のタイヤを回し、ブレーキの引きずりが無いことを確認する。

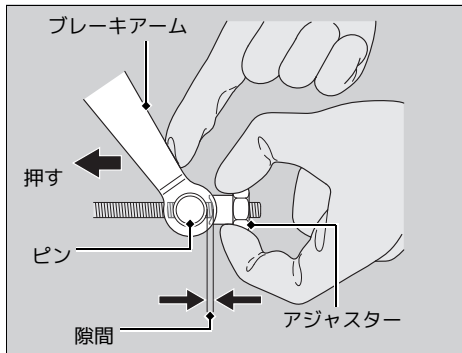


調整後は、右ブレーキレバーの遊びを確認してください。

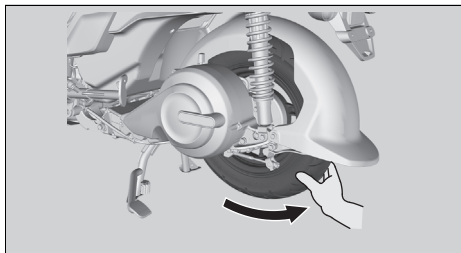
5. 後輪のアジャスターを半回転ずつ回し、左ブレーキレバーの遊びを調整する。



6. ブレーキアームを押し、アジャスターとピンの間に隙間があることを確認する。



7. 後輪のタイヤを回し、ブレーキの引きずりが無いことを確認する。



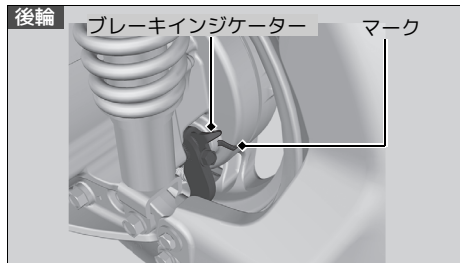
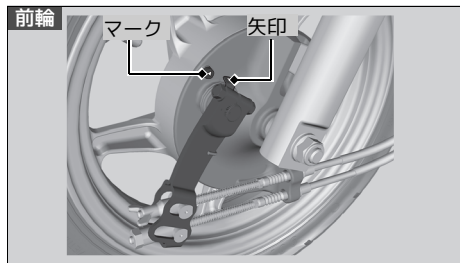
アドバイス

調整範囲を超えてアジャスターを回さないでください。

調整後は、ブレーキレバーの遊びを確認してください。

レバーの調整範囲を超えた場合や、詳しい遊びの調整についてはご購入店にご相談ください。

ブレーキシューの摩耗の点検



GEAREV

前輪は右ブレーキレバーをいっぱいに引いて、後輪は左ブレーキレバーをいっぱいに引いて、ブレーキインジケーターの矢印（前輪）またはブレーキインジケーターの先端（後輪）とブレーキパネルのマークが一致しないことを確認します。

NEWS GEAREV

前輪は前輪ブレーキレバーをいっぱいに引いて、後輪は後輪ブレーキペダルをいっぱいに踏んで、ブレーキインジケーターの矢印（前輪）またはブレーキインジケーターの先端（後輪）とブレーキパネルのマークが一致しないことを確認します。

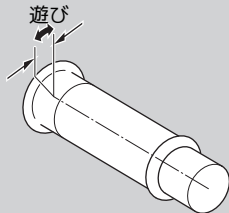
一致する場合は、ブレーキシューの使用限界ですので交換してください。ブレーキシューの交換は、ご購入店にご相談ください。

スロットルの点検

メインスイッチを○(Off)にした状態でスロットルを作動させ、スムーズに動くかどうか、ハンドルを左右にきっても作動が重くないか、スロットルグリップの遊びが適正か点検します。異状を感じた場合やスロットルケーブル外表部に損傷があるときはご購入店にご相談ください。

スロットルグリップの遊び：

2 - 6 mm



こんなときは

走行できない	P. 76
警告灯が点灯 / 点滅	P. 79
システム警告灯	P. 79
速度警告灯	P. 80
出力制限表示灯	P. 80
その他の故障表示	P. 81
動力用バッテリー残量表示灯の故障表示	P. 81
電装部品のトラブル	P. 82
ヒューズ切れ	P. 82

■メインスイッチを「(On)」にしても メーターが表示されないとき

次の点を確認してください。

- ヒューズが切れていないか ■ P. 56
- 12V バッテリーターミナル部に緩みや腐食がないか ■ P. 55

表示されない場合は、12 V バッテリーがあがっている可能性があります。ご購入店で12 V バッテリーの点検・交換を行ってください。

■待機状態表示灯が点滅しないとき

次の点を確認してください。

- サイドスタンドが格納されているか
 - スロットルグリップが完全に閉じているか
- これらに該当しない場合や異状がある場合は、ご購入店にご相談ください。

■モーターが起動しないとき

次の点を確認してください。

- 動力用バッテリーに残量があるか ■ P. 21
- システム警告灯  が点滅していないか
 - ▶ 点滅している場合は、直ちにご購入店にご相談ください。

これらに該当しない場合や異状がある場合は、ご購入店にご相談ください。

「hot」が点滅しているとき

異常温度を検出すると、PCU およびモーター保護のため「hot」が点滅します。出力制限がかかりますが走行は可能です。規定温度になると消灯し、出力制限が解除されます。

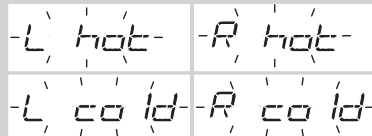


▶ **READY**表示灯が消灯した場合、走行できません。

メインスイッチを○(Off)にし、しばらく待ってからメインスイッチを■(On)にしてください。症状が改善されない場合は、ご購入店にご相談ください。

「R hot」、「R cold」、「L hot」または「L cold」が点滅しているとき

異常温度を検出すると、動力用バッテリー保護のため「R hot」、「R cold」、「L hot」または「L cold」が点滅します。出力制限がかかりますが走行は可能です。規定温度になると消灯し、出力制限が解除されます。



▶ **READY**表示灯が消灯した場合、走行できません。

メインスイッチを○(Off)にし、しばらく待ってからメインスイッチを■(On)にしてください。症状が改善されない場合は、ご購入店にご相談ください。

■ 動力用バッテリー残量表示灯が点滅しているとき

次の点を確認してください。

- 動力用バッテリーが正しく取り付けられているか ■ P. 43

■ 動力用バッテリー警告灯が点灯しているとき

動力用バッテリーに異状があると点灯します。



直ちにご購入店にご相談ください。

システム警告灯

メインスイッチ¹(On)中に点灯・点滅した場合は何らかの異常が考えられます。直ちにご購入店にご相談ください。

速度警告灯

車の速度が法定最高速度（30 km/h）を超えると点滅し、運転者に注意をうながします。

出力制限表示灯

急な坂道を登り続けた場合、出力制限がかかり坂道が登りづらくなる場合がありますが故障ではありません。

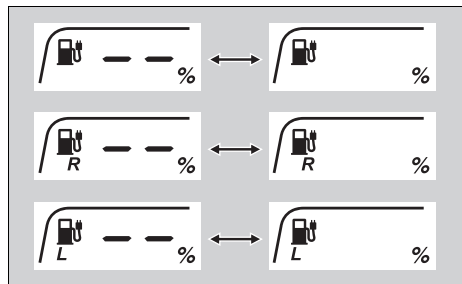
登り坂で停止する場合はスロットルを閉じ、ブレーキを使用して停止してください。

- ▶ ブレーキ をかけた状態でスロットルを開け続けないでください。
- ▶ スロットル操作を利用して、その場にとどまるような停止はしないでください。

冬季の氷点下となる状態で車両を放置した後に走行する場合、出力制限がかかり走行性能が低下することがありますが故障ではありません。動力用バッテリーが規定温度になり停車すると消灯し、出力制限が解除されます。

動力用バッテリー残量表示灯 の故障表示

動力用バッテリー残量表示灯のセグメントが図のように点灯、消灯をくりかえしたときはご購入店にご相談ください。

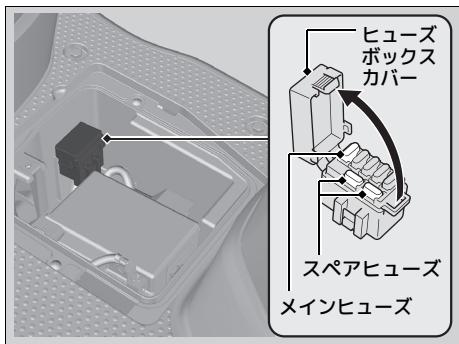


ヒューズの取り扱いについてはメンテナンスの基礎知識をご確認ください。 ■ P. 56

ヒューズ切れ

■ ヒューズボックス内のヒューズ

1. 12 V バッテリーリッドを取り外す。 ■ P. 61
2. ヒューズボックスカバーを開ける。
3. ヒューズが切れている場合は、同じ容量のスペアヒューズと交換する。
4. ヒューズボックスカバーを閉じる。
5. 12 V バッテリーリッドを取り付ける。



アドバイス

ヒューズが切れた際は、早めにご購入店で点検し、スペアのヒューズを補充してください。

インフォメーション

ユーザー情報	P. 84
キーの取り扱い	P. 85
装備に関する補足情報	P. 86
車のお手入れ	P. 87
保管のしかた	P. 89
廃棄するとき	P. 90
フレームおよびモーターナンバー	P. 92

ユーザー情報

■ 車両情報の記録に関して

これはヤマハ発動機（以下、当社といいます）の車両情報利用についての概要です。詳細については、当社WEBサイトのプライバシー・ポリシーをご確認ください。

<https://global.yamaha-motor.com/jp/privacy/>

■ 車両情報の記録と収集方法

この車両に搭載されているコンピューターは、次の3種類の車両情報を記録しています。

1. 車体番号
2. エンジン/モーターの使用状況、車速、行距離などの車両稼働状況の情報
3. 故障診断コード（DTC）など、車両の状態を示す情報

記録した車両情報は車両点検や修理の際にヤマハ車専用の故障診断ツールを接続した場合に限り、当社のサーバーに送信されます。

■ 車両情報の利用目的

当社は収集した車両情報を以下の目的で使用します。

1. 適切なメンテナンスや故障探求のため
2. 適正な保証修理判定のため
3. 製品の研究開発
4. 製品、機能、およびサービスの品質向上のため
5. その他の事業目的を達成するため
6. 法的義務の履行や係争事案対応のため

■ 車両情報の提供に関して

利用目的の達成に必要な範囲内で、子会社、関連会社、業務提携会社、ヤマハ販売店、および業務委託先に情報を提供する場合があります。

お問い合わせ窓口

車両情報の取扱いに関しての請求、質問やご要望がある場合は、以下のメールアドレスにお問い合わせください。

ヤマハ発動機株式会社
〒438-8501 静岡県磐田市新貝 2500
dpo@yamaha-motor.co.jp

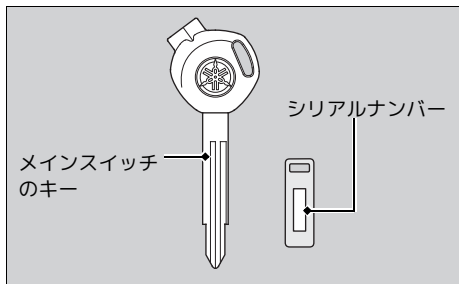
こちらの連絡先は、車両情報収集に関するお問い合わせのみに使用させていただいております。

関連のないお問合せをいただいた場合、回答できない場合がございます。あらかじめご了承ください。お客様のご要望に的確にお応えするため、ご連絡いただく際には、お客様の名前、住所、電話番号、メールアドレス等の連絡先と車体番号をお知らせください。ご連絡いただいた内容に不明な点がある場合は、お客様にご連絡させていただきます。なお、確認が取れない場合はご要望に応じられない可能性があります。

キーの取り扱い

メインスイッチのキー

メインスイッチのキーについているキーナンバープレートには、シリアルナンバーがあります。このシリアルナンバーは、メインスイッチのキーを注文するときに必要になります。メインスイッチのキーを注文する際は、ご購入店にご相談ください。盗難防止のため、シリアルナンバーは他人に知られないように保管してください。



キーに金属製のキーホルダーを使用するとメインスイッチ周辺に傷がつくおそれがあります。

装備に関する補足情報

■ メインスイッチ

動力用バッテリーを取り外している状態でメインスイッチを●(On)の状態にしておくと 12 V バッテリーあがりの原因となります。

走行中はメインスイッチのキーを操作しないでください。

■ オドメーター

オドメーターは、999,999 km を超えると 999,999 km でロックします。

■ トリップメーター

トリップメーターは、9,999.9 km を超えると 0.0 km に戻ります。

■ 書類入れ

取扱説明書、登録書類、保険証、メンテナンスノートなどは書類入れに入れ、シート下の書類入れボックスに収納してください。

■ モータードライブカットオフシステム

この車は、転倒したとき、自動的にモーターを停止するシステムが装備されています。モーターを再起動するときは、システムの作動を解除するためにメインスイッチを一度○(Off)にしてください。

■ ヘッドライト / ポジションライト

LED 使用のライトは一体式です。

もし、1 個でも点灯しなくなった場合は、ご購入店にご相談ください。

車のお手入れ

お車を長持ちさせるため、清掃などのお手入れは大切です。普段見逃しがちな異状の発見にもつなげられます。また、海水や路面凍結防止剤などに含まれる塩分は、車体のサビを促進します。さらに、泥やほこりが付着するとフロントサスペンションの摩耗が早くなり、オイル漏れを引き起こすことがあります。海岸付近や凍結防止剤を散布した路面を走行したあと、泥やほこりの多い場所を走行したあとは、必ず洗車してください。

洗車

モーター周辺、ブレーキなど高温になる部分は冷えるまで洗車しないでください。

1. 全体を水洗いして、汚れを取り除く。
2. 汚れがひどいときは、薄めた中性洗剤を使用し、スポンジか柔らかいタオルを使って洗う。
 - ▶ 傷を防ぐため、多量の水を使って、汚れを落としてください。
3. 十分な水で洗剤を洗い流しやわらかい布で拭きあげる。
4. 車体を乾燥させた後、可動部分に注油する。

5. 車体の腐食を防ぐためワックスがけを行う。

■ 洗車にあたっての注意

洗車するときは、次のことをお守りください。

- 高圧洗車機の使用はさける
 - ▶ 車体に高い水圧がかかる洗車を行うと、可動部や電装部品などの作動不良や故障の原因となることがあります。
 - ▶ ヘッドライトレンズやフェアリング、その他のプラスチック部品を洗うときは、傷を防ぐため、多量の水を使って、汚れを落としてください。
- 動力用バッテリーおよび動力用バッテリーボックス内を水洗いしたり、洗剤などで清掃しない
 - ▶ 起動不良や故障の原因になります。
- シートの下から水を強くかけない
 - ▶ 内部に水が入り、書類などが濡れることがあります。
- ブレーキを濡れたままにしない
 - ▶ 水によってブレーキの効き具合が悪くなる場合があります。洗車後は十分に乾かし、慎重なブレーキ操作を心がけてください。

● ワックス、ケミカル類や油脂類を扱うとき

- ▶ ブレーキやタイヤにオイル等の油脂類、ワックスやケミカル類が付着しないよう注意してください。ブレーキが効かなくなり、事故の原因になる場合があります。
- ▶ ワックスやケミカル類を使用するときは、ボディーが目立たないところでくもりや傷、色むらなどが生じないか確認してください。種類によっては塗膜が薄くなったり色むらが生じるものがあります。
- ▶ つや消し塗装が使われている場合は、塗装面にワックスやケミカル類を使用すると、つや消し感が無くなったり、色むらが生じるおそれがありますので、使用しないでください。

● ヘッドライトがくもったとき

- ▶ ヘッドライトは雨天走行や洗車などにより、レンズ面が一時的にくもることがあります。また、ヘッドライト内と外気との温度差により、レンズ内面が結露することもあります。これは、雨天時などに窓ガラスがくもると同様の自然現象で、機能上の問題ではありません。また、ヘッドライトの構造上、レンズの縁に水滴が付着することがありますが、機能上の問題ではありません。但し、ヘッドライト内に水がたまっている場合や大粒の水滴がついている場合はご購入店にご相談ください。

アルミ部品

アルミ部品は土や泥、あるいは塩分によって腐食します。傷をつけないよう、取り扱いについては次のことに注意してください。

- 硬いブラシやスチールワールを使用しない
- アルミホイールはすり当てをさけ、縁石などに乗り上げる際は変形に注意する

樹脂部品

傷やひび割れ等を防ぐため、取り扱いについては次のことに注意してください。

- 清掃するときは多量の水を使って、やわらかい布やスポンジで汚れを落とす
- 汚れがひどいときは、薄めた中性洗剤を使用し、十分な水で洗剤を洗い流す
- メーター、フェアリング、ヘッドライトレンズなどの樹脂部品にガソリン、ブレーキ液、クリーナーなどがかからないようにする

保管のしかた

屋外に保管する場合はボディーカバーをかけてください。なお、ボディーカバーはモーター周辺が冷えてからかけてください。

また、長期間ご使用にならない場合は、次のことをお守りください。

- 動力用バッテリーの劣化を防ぐために、動力用バッテリー残量を 30% にし、涼しい場所で保管する



推奨気温：0 ～ 25℃

- ▶ 保管中に 1ヶ月に一度、動力用バッテリー残量表示灯を確認し、バッテリー残量が 10% になったら、30% まで充電してください。

アドバイス

- 動力用バッテリーの残量が 10% 以下の状態で長期間保管すると、動力用バッテリーの故障の原因となるおそれがありますので、おやめください。
- 満充電にして保管すると、かえって劣化が進んでしまう場合がありますので、おやめください。

- サビを防ぐために、保管前にワックスがけを行う（つや消し塗装面を除く）
- 雨上がりにはボディーカバーを外し、車体を乾燥させる
- 12 V バッテリーは自己放電と電気漏れを少なくするため、車から取り外し、完全充電して風通しのよい暗い場所に保存する
 - ▶ もし 12 V バッテリーを車に積んだままにする場合は、⊖ 側ターミナルを外してください。

長期保管後にお車に乗る際は、動力用バッテリーを満充電まで充電し、保管期間を考慮した上で、各部の点検を実施してください。

廃棄するとき

地球環境を守るため、お車や交換した部品、なかでも使用済みのバッテリーやタイヤ、トランスミッションオイルの廃油等はむやみに捨てないでください。これらのものを廃棄する場合は、ご購入店にご相談ください。

また、将来お車の廃棄を希望するときはご購入店へご相談ください。

動力用バッテリーは、リチウムイオンバッテリーを使用しています。廃棄処分については特別な取り扱いが必要です。

二輪車リサイクルマーク、リサイクル料金 (動力用バッテリーは除く)

この車には、二輪車リサイクルマークが車体に貼付されています。マークが車体に貼付されている二輪車は、再資源化するためのリサイクル費用がメーカー希望小売価格に含まれていますので、二輪車を廃棄する際は、再資源化に必要なリサイクル料金はいただきません。

ただし、廃棄二輪車取扱店および指定引取場所までの収集・運搬料金はお客様のご負担となります。収集・運搬料金については廃棄二輪車取扱店にご相談ください。

二輪車リサイクルマークは、シートを開けると確認できます。▶ P. 46



お車を廃棄する際、二輪車リサイクルマークが必要です。マークは剥がさないでください。マークの再発行や販売の取り扱いはありません。廃棄二輪車に関するお問い合わせは、下記のホームページへお願いします。

ヤマハ発動機(株) 二輪車リサイクルシステム
<https://www.yamaha-motor.co.jp/mc/recycle/>

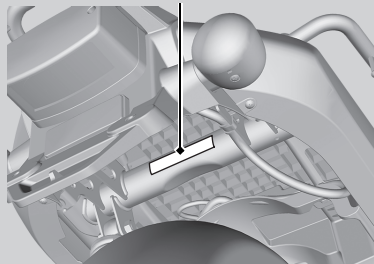
公益財団法人 自動車リサイクル促進センターホームページ
<https://www.jarc.or.jp/motorcycle/>

フレームおよびモーターナンバー

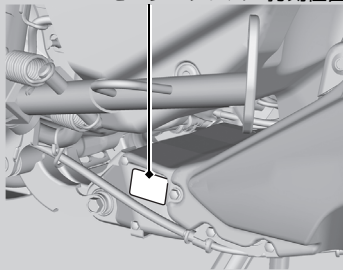
フレームおよびモーターナンバーは、部品を注文するときや、車の登録に関する手続きに必要です。また、フレームナンバーは、お車が盗難にあった場合に、車を捜す手がかりにもなります。ナンバープレートの登録番号とともに別紙に記録し、車と別に保管することを推奨します。

フレームナンバーは、フレーム後方に打刻されています。

フレームナンバー打刻位置



モーターナンバー打刻位置



■主要諸元

型式	GEAREV	ZAD-EY02
	NEWS GEAREV	ZAD-EY03
全長	GEAREV	1,820 mm
	NEWS GEAREV	1,840 mm
全幅	GEAREV	710 mm
	NEWS GEAREV	780 mm
全高	GEAREV	1,025 mm
	NEWS GEAREV	1,050 mm
ホイールベース	1,280 mm	
最低地上高	115 mm	
キャスター角	26° 30'	
トレール長	76 mm	
車両重量	GEAREV	125 kg
	NEWS GEAREV	130 kg
乗車定員	1 名	
最小回転半径	1.9 m	
定格出力	GEAREV	0.58 kW
	NEWS GEAREV	
12 V バッテリー 電圧 / 容量	YTZ4V	12 V-3 Ah (10 HR)
	12 V-3 Ah (10 HR)	
減速比	1 次	3.470
	2 次	3.833

■サービスデータ

ブレーキ レバーの遊び	前輪 / 後輪 GEAREV	10 - 20 mm
	前輪のみ NEWS GEAREV	10 - 20 mm
ブレーキ ペダルの遊び	NEWS GEAREV	20 - 30 mm
タイヤサイズ	前輪	90/90-12 44J
	後輪	110/90-10 61J
タイヤタイプ	バイアス、チューブレス	
指定タイヤ	前輪	CST C-922HF
	後輪	CST C-940
タイヤ空気圧	前輪	175 kPa (1.75 kgf/cm ²)
	後輪	225 kPa (2.25 kgf/cm ²)
推奨トランス ミッションオイル	ヤマルーブ レッド バージョン フォースクーター	
	または下記相当品	
トランスミッション オイル容量	JASO T 903 規格: MB	SAE 規格: 10W-30 API 分類: SJ 級以上
	SAE 規格: 10W-30	
オイル交換時	オイル交換時	0.14 ℓ
	全容量	0.16 ℓ

■バルブ（電球）

ヘッドライト / ポジションランプ	LED
ストップ / テールランプ	12 V-21/5 W
ウィンカー	12 V-10 W × 4

■ヒューズ

動力用バッテリー	メインヒューズ	100 A
	その他のヒューズ	15 A
12 V バッテリー	メインヒューズ	15 A
	その他のヒューズ	7.5 A

1	
12 V バッテリー	55, 61
ア	
アクセサリ	11
アクセサリソケット	45
安全運転のために	6
安全上守っていただきたいこと	3
安全なライディング	2
イ	
インナーポケット	13, 48
インフォメーション	83
ウ	
運転するときの注意	7
オ	
お手入れ	87
オドメーター	21, 23, 86
カ	
改造	11
各部の名称	16, 18
カラーラベル	53
キ	
基本操作の流れ	14
ケ	
警告灯	
システム警告灯	26, 79
速度警告灯	26, 80
動力用バッテリー警告灯	22
コ	
交換部品	53
後退装置	40
後輪ブレーキロック	33
こんなときは	75
コンビブレーキ	8

シ	
シート	46
システム警告灯	26, 79
シャッター	31
書類入れ	48, 86
書類入れボックス	48
ス	
スイッチ	
ウinker（方向指示器）スイッチ	28
ヘッドライト（前照灯）上下切り換え スイッチ	28
ホーンスイッチ	28
メインスイッチ	29, 86
モータースタート／リバーススイッチ	28
リバーススイッチ	28
スタートの手順	36
スピードメーター	21
スペック	93
スロットル	74

セ	
積載について	12
洗車	87
前輪ブレーキロック	32
ソ	
速度警告灯	26, 80
その他装備の使いかた	46
その他の故障表示	81
タ	
タイヤ	58
正しい運転の操作	36
チ	
駐車	9
テ	
点検	
定期点検	52
日常点検	51
電装部品のトラブル	82

ト		動力用バッテリー残量表示灯	21
動力用バッテリー	7, 42, 54	ハイビームパイロットランプ表示灯	26
動力用バッテリー警告灯	22	方向指示器表示灯	26
動力用バッテリー点検灯	22		
時計	23	フ	
トランスミッションオイル	57, 63	服装	6
トリップメーター	21, 23, 86	ブレーキ	
		使いかた	39
ナ		ブレーキシュー	73
慣らし運転	7	ブレーキペダルの遊び	65
		フロントバスケット	13
ハ		フロントフック	13, 48
廃棄	90	ヘ	
ハンドルロック	30	ヘルメット	6
		ヘルメットホルダー	47
ヒ			
ヒューズ	56, 82	ホ	
表示灯		保管	89
READY 表示灯	26		
サイドスタンド表示灯	21	メ	
出力制限状態表示灯	22	メインスイッチのキー	85
待機状態表示灯	21		

メーター	20
メンテナンス	50

モ

モーター起動	34
モータードライブカットオフシステム	86

ユ

ユーザー情報	84
--------------	----

リ

リアキャリア	13
リサイクルマーク	91
リバース表示灯	26

お問い合わせ

お車についてのお問い合わせ、ご相談は、まずご購入店にご相談ください。

販売店

TEL

お車に関してお問い合わせいただく際は、お客様へ正確、敏速にご対応させていただくために、あらかじめ、お手元にお車の車検証や届出済証などの登録書類をご準備いただき、下記の事項をご確認のうえ、ご相談ください。

- ①車両型式、車台番号、原動機型式、登録番号、登録年月日
- ②車種名、タイプ名、走行距離
- ③ご購入年月日



QQS-CLT-100-DV5

30GX4A00

00X30-GX4-A000

ⓧ XXXX.202X.XX.T